

芸術(美術・工芸)

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進

～主体的・対話的で深い学びの学習過程の工夫改善と適切な評価の実践～

(2) 研究のねらい

これまで取り組んできた先行研究を基に、ワークシートの活用によって生徒が造形的な見方・考え方を働かせ主体的に学ぶ姿勢を身につけることをねらいとする。生徒が題材を自分事として捉え、粘り強く取り組むために、見通しをもって学習するための手立てとして推進委員で基本となるワークシートの共通フォーマットを作成し、各学校で取り扱う題材で活用し、生徒個人の学びを、年間を通してワンペーパーで蓄積できようとする。また、昨年度の研究テーマの「B鑑賞」を適切に配当し、造形的な視点を意識させる鑑賞の活動の改善も継続している。

2 実践事例〔横浜立野高等学校〕

(1) 題材指導計画

ア 科目名：美術Ⅱ(2学年)

イ 題材名：形で伝える想い～お祝いのパッケージデザイン

ウ 題材の目標：

「知識及び技能」

- ・色や形、材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- ・主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す。(「A表現」(2)イ)

「思考力、判断力、表現力等」

- ・祝い菓子をパッケージするという目的や条件などを基に、人と社会をつなぐデザインの働きについて考え、主題を生成する。また、主題を基に社会におけるデザインの機能や効果、パッケージデザインの表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る。(「A表現」(2)ア)
- ・祝い菓子をパッケージするという目的や機能との調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(2)ア(イ))

「学びに向かう力、人間性等」

- ・主体的に祝い菓子をパッケージするという目的や機能などを基にした表現の創造的な諸活動に取り組もうとする。
- ・主体的に祝い菓子をパッケージするという目的や機能との調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとする。

エ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知色や形、材料などの性質や働き、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。</p>	<p>発祝い菓子をパッケージするという目的や条件、人と社会をつなぐデザインの働きについて考え、主題を生成し、社会におけるパッケージデザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑パッケージデザインの目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想</p>	<p>態表主体的に祝い菓子をパッケージするという機能などを基にした表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑主体的にパッケージデザインの目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深める鑑賞の</p>

	の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。	創造的な諸活動に取り組もうとしている。
--	---	---------------------

オ 題材の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	2	導入 表現形式について(1時間) ○人と社会をつなぐデザインについて考える。 ・デザインについての見方や考え方を働かせるために、調べたり、今までの経験などから、感じたり、考えたりしたことを、ワークシートにまとめ、グループで共有する。 作品の鑑賞(1時間) ○パッケージデザインについて見方・考え方を深めるために、既存の紙製商品パッケージを手にとって鑑賞したり、参考例を組み立てる制作体験をする。 ・題材の目標や作業の手順などを確認し、制作の見通しを持つ。	●知 ↓	●鑑 ↓	●態表 ↓ ○態鑑	活動の様子、発言の内容、ワークシート 【指導上のポイント】 対話的な学びの視点を基に、プロダクトデザインなどについてICT端末を活用し調べたり考えたりしたことなどをグループで共有し考えを広げる。効果的な言語活動にするために説明の仕方の例を示し、グループワークをしやすい環境を整える。 【鑑】の評価のポイント】 ワークシートの記述や発言の内容から見方や考え方を働かせているかどうかを評価する。 【指導上のポイント】 贈答用パッケージデザインのお祝いの気持ちを伝えることや贈答品を運び守ることなどの目的や機能と形の美しさをどのように調和させて個性豊かな表現をしているのかという視点で、既存の作品の鑑賞や制作体験を通して、多様な視点で考えられるようにする。 【態鑑】の評価のポイント】 生徒が主体的に見方・感じ方を深めようとする意欲や態度を高められるように、発問や作品提示の順番など鑑賞活動の内容を工夫し、その姿を活動の様子や発言の内容、ワークシートから見取り評価する。
2	5	発想や構想(5時間) ○制作体験や、アイデアスケッチ、グループワークを通して、祝い菓子をパッケージするという目的を基に、人と社会をつなぐデザインの働きを考え、主題を生成する。 ・コピー紙等で簡易的にマケット制作や、アイデアスケッチを行い、個性豊かな立体の発想をする活動を行う。 ・中間発表会①を行い、自身で説明することで、主題を明確にし、造形的な視点を働かせることを意識する。 ○社会におけるパッケージデザインの機能や、材料のケント紙、工作用紙などの紙の特性について考え、個性豊かなパッケージデザインの構想を練る。 ・中間発表会②を行い、機能や条件について確認し、デザインを決定する。	●知 ↓	●発 ↓	●態表 ↓	活動の様子、ワークシート【No.1】、アイデアスケッチ 【指導上のポイント】 ・生徒が主体的に主題を生成しやすくするため、題材の終了後に自身の考えなどの変容を読み取ることができるよう、ワークシートの内容や構成を工夫する。 ・見通しを持って制作を行うことができるように紙等材料の特性、扱い方、カッター等用具類の特徴、使い方、手順を丁寧に説明する。また事故防止の観点からも用具の配置等の環境整理を行う。 ・展開図から立体にする過程では、立体にするための展開図を構想することや、紙などの材料の特性を生かして美しい立体を作ることが重要である。粘り強く造形を追求するために、小さい試作を繰り返し作成するなど、主題を表現するために試行錯誤をすることを意識させる。発想したことを立体的に捉えきれない生徒には、粘土等で作業し実際の形から展開図を作成する等の確認がしやすい方法で試作ができるように工夫する。 ・主題生成後や構想を練っている途中で中間発表を行い、自身のアイデアについて確認をさせる。 【発】の評価のポイント】 1次での制作体験で得たことを基に、パッケージを使用する目的や条件、形が感情にもたらす効果を意識しイメージした形などから、主題を生成してパッケージデザインが持つ機能や紙材の特性な

					<p>どから個性豊かで創造的な表現の構想を練っているか、アイデアスケッチやマケット制作の活動の様子から評価する。</p> <p>【態表の評価のポイント】</p> <p>アイデアスケッチの量や発言の量で評価するのではなく、生成した主題を表現するために主体的に繰り返しアイデアスケッチを描いたり試作を作ったり、他の人と批評しあったりしている様子をワークシートから見取り評価する。</p>
3	9	<p>制作(9時間)</p> <p>○発想や構想したことを基に、創造的に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチや試作を基に展開図面を描く。 ・面材の特性や紙の裁断、折り曲げ等の材料に適した技法を工夫し主題を追求して作品を完成させる。 ・制作の途中で中間鑑賞を行う。主題にあった造形ができているかという視点で、作品を相互鑑賞し、客観的な視点やアドバイスを参考にして、制作に生かす。 	<p>● 技</p> <p>↓</p> <p>○ 技</p>	<p>● 発</p> <p>↓</p> <p>○ 態表</p>	<p>活動の様子、制作途中の作品、ワークシート</p> <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具類の特徴や使い方、手順を確認させる。 ・制作途中に中間発表を行い、目的や設定した条件を踏まえたパッケージデザインの構想ができているか確認をさせる。 <p>【技の評価のポイント】</p> <p>作品制作での技術の有無ではなく、パッケージデザインの目的や条件を踏まえ、主題にあった表現をすることを理解し、完成の見通しを持って紙のよさやカッターなどの道具の特徴を生かし個性豊かに創造的に表現しているか、制作途中の作品やワークシート、活動の様子から見取る。</p> <p>【態の評価のポイント】</p> <p>生徒が主体的に制作に取り組み、造形的な視点を意識しながらより良い表現を目指して試行錯誤している姿や、技能を身に付けようと意欲を発揮している姿をワークシートや毎時間の振り返り、記録した活動の様子から見取る。</p>
4	1	<p>鑑賞(1時間)</p> <p>○完成したお互いの作品を鑑賞し、感じたことや考えたことなどから根拠を持って批評し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士で作品を贈り合い、手に持って開閉する等してパッケージデザインの目的や機能が調和しているか鑑賞する。 <p>○題材の振り返りをする</p>	<p>● 知</p> <p>↓</p> <p>○ 技</p>	<p>● 鑑</p> <p>↓</p> <p>○ 態鑑</p>	<p>活動の様子、ワークシート</p> <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材を通して造形的な見方・考え方を働かせ、他者の作品からだけではなく、身の回りのパッケージデザインなどのよさや美しさから見方や感じ方を深められたかを実感できるような鑑賞の活動やワークシートを工夫する。 ・題材全体の振り返りでは、表現と鑑賞の学習活動の関連に気付いたり、自己の学びの蓄積を把握しデザインの本質に迫れるよう発問やワークシートを工夫する。
		<p>授業外：題材の終了後</p>	<p>○ 知</p> <p>○ 技</p>	<p>○ 発</p> <p>○ 鑑</p>	<p>ワークシート、アイデアスケッチ、完成作品、制作経過の写真、活動の様子の記録</p> <p>【技の評価のポイント】</p> <p>完成作品とともに制作途中の作品から創造的に表す技術の高まりを読み取る。制作途中の作品に関しては毎授業の振り返りとしてGoogle Classroomに提出された制作経過の写真を参考に行う。</p> <p>【発の評価のポイント】</p> <p>制作途中の作品や完成作品からも、造形要素の働きについて考えが深まり主題や表現の意図など発想や構想が変化していく過程や高まりをワークシート、アイデアスケッチから読み取り評価する。</p> <p>【鑑の評価のポイント】</p> <p>表現の創造活動で学んだことを関連させて考えながら他者の作品を鑑賞し、見方や感じ方を深めているかどうかをワークシートで見取る。</p>

					<p>【知の評価のポイント】</p> <p>本題材では、共通事項の造形的な視点から主題を生成することから、「共通事項」の内容を理解しているか、完成作品やアイデアスケッチ等から実現状況を見取って評価する。</p>
--	--	--	--	--	---

力 授業実践 (7時間目/17時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点(評価方法)
<p>1. 前時</p> <p>中間発表会を視野に入れ、コピー紙等で簡易的にマケットを作ったり、アイデアスケッチをしたりして、発想を広げた。この時点では実際にできるのか制作可否など構想のための視点より、祝うことについて初めに感じたことを基にして感情を立体的に表す視点をもって活動することを理解する。</p>	<p>【知知識】</p> <p>【表思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートNo.1③ アイデアスケッチ ワークシートNo.2 振り返りシート
<p>2. 本時のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> グループワークや中間発表会を通じて、自身のイメージを立体として表現できているかを確認し、主題として成立するか検証する。その際、「お祝いする」「お祝いされる」という場面で生まれる感情に「形」がもたらす効果を意識し、造形的な視点を実感的に理解するための言語活動に取り組む。 グループの意見を発表して、形という造形要素の働きへの理解をクラス全体で共有する。 グループワークで得られた客観的な意見を生かし、主題の再検討や今後の構想を練ること、マケット制作やアイデアスケッチで試行錯誤することなどから自身の学びを調整することが大切であることを理解する。 	
<p>3. 学習活動 (52分)</p> <p>導入 (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の流れとねらいをワークシートNo.1と板書で確認する。 他クラスのアイデアスケッチやマケットから作者の意図や造形的な視点に注目し、クラス全体で共有する。ワークシートを改めて確認して各自の主題の生成の過程を振り返り、グループワークや中間発表会を自身の学習活動に役立てるよう意識する。 	
<p>展開1 (15分)</p> <p>前時のアイデアスケッチの続きと、発表会のための準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時のアイデアスケッチなどを基に、コピー用紙などで、パッケージのマケットを簡易的に制作する。今回のマケットも含め、自身のイメージした形を表現できていると感じた数点を選ぶ。また、それぞれの発想の経緯や工夫した点などの説明、相談したいことやこれまでの発想の活動を通してパッケージデザインについて気付いたことなどをワークシートNo.2にまとめる。 	<p>【知知識】</p> <p>【表思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> マケット アイデアスケッチ ワークシートNo.2 活動の様子
<p>展開2 (25分)グループワーク</p> <p>グループごとにマケットやアイデアスケッチを共有し、今後の制作に向けて意見の共有をする。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループワークでは、自己と他の生徒のアイデアスケッチやマケットを比較して新しい見方や視点に気付き、自己の考えを広げる言語活動を行う。 各グループの代表者が共有した意見などについて全体発表をする。(留意点：各自が造形的な視点を持って発表を聞くことを意識するように伝える。) 	<p>【知知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発言の内容 ワークシートNo.2 活動の様子
<p>片付け(2分)</p>	
<p>まとめ・振り返り(5分)</p> <p>グループやクラス全体で共有した内容を今後の試作へ反映させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のグループワークや全体発表で共有した意見などを基に気付きなどをワークシートにNo.2まとめる。友人のマケットや意見などから発 	<p>【態主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートNo.2 振り返りシート

<p>見したことや、制作体験やアイデアスケッチ、マケット制作を通して自身の変容を実感する。目的や条件に即した主題であるか再検討するとともに、これまでの学習活動で得た気付きなどをワークシートにまとめ、次回の授業での自身の活動を検討する。</p>	
<p>3. 次時について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回のグループワークでの気付きを生かし、条件や目的について考え、改めて主題を再検討する。具体的にはマケットの中からよいと思うものをスケッチしたり、作り変えたりして発想と主題の生成を往還する。進捗によっては、生成した主題を基に、社会におけるパッケージデザインの機能や効果などを考え試作し、構想を練る活動に進む。 	<p>【態】主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>【表】思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート No.1 ⑤ 振り返りシート

研究実施校：神奈川県立横浜立野高等学校(全日制)
 実施日：令和5年10月23日(月)
 授業担当者：渡邊 奈菜 教諭

(2) 横浜立野高等学校での実践研究における「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けたワークシートの工夫と活用

推進委員会では、当題材において「主体的で対話的な深い学び」を実践している生徒の姿を、以下の具体的な内容で想定し、整理した。

- 主体的な学びをしている生徒の姿
 地域の和菓子店に貢献するという姿勢で、ギフトパッケージのデザインに取り組み、題材にどのように取り組むべきか生徒自身が考え制作に取り組んでいる。主題を追求するためにアイデアスケッチや振り返りから、思考の流れなどを見返して表現活動に生かしている。
- 対話的で深い学びをしている生徒の姿
 造形的な視点を働かせて、題材に対しての想いや、発想の活動で生成した主題などについて構想を練り、他者の意見を参考にして得た気付きや新しい視点からさらに構想を深め、パッケージデザインについて考え方を広げている。
- 深い学びをしている生徒の姿
 表現や鑑賞の活動を通して造形的な見方・考え方を働かせ、パッケージデザインに対して自分ならではの意味や価値などをつくりだして、日常生活における様々な問題解決に学んだことを生かそうとしている。

以上のような姿の生徒を育てるために、推進委員会ではワンペーパーで「題材の学びを見通せる共通ワークシート・フォーマット」を作成した。これを各勤務校の実態に合わせて再構成し、「題材の学びを見通せるワークシート」(図1)を作成し活用することを手立てとした。

○ 「題材の学びを見通せる共通ワークシート・フォーマット」は、生徒の誰もが使いやすくなるようユニバーサルデザインを意識し項目ごとに囲いをつけた様式とし、A3サイズの見開き1ページに「題材の目標」や「学習過程の把握」、「各学習活動の相互の関連」、「題材の振り返り」の4項目で構成し、活動内容などを把握しやすくした。また、各学校で「題材の学びを見通せるワークシート」を作成する際は、生徒に題材を通して意識させるキーワードや問いと、各学習活動との繋がりを把握できるようにレイアウトし、教師が指導と評価の一体化の視点を持ち個々の生徒の発想や構想の内容や学習に取り組む態度などの状況を学習活動の中で把握しやすくなるよう工夫した。

○ 横浜立野高等学校での実践研究では、鑑賞の活動でプロダクトデザインについて調べ、機能と美しさの調和への意識やその工夫について実際の商品パッケージから感じ取ったり考えたりしたことを、その後の制作につなげた。制作ではクライアントを意識して主題を考えることで人と社会をつなぐデザインについて実感することを意図した。また、発想・構想や制作の各段階で中間発表会を行うことで、他者の考えを知り、自己の考えを発信して見方や考え方を広げ、制作上の課題解決の機会とした。本研究では、自身の気付きを言葉にして主題を明確にしたり、発想・構想や制作上の工夫を記録して、自己の思考の流れを振り返ったりすることができるように「題材の学びを見通せるワークシート」の開発を行った。

○ そのため、アイデアスケッチやマケット制作、中間発表などを活用して、発想と主題の生成の往還を意識して自身の学びを調整できるよう、活動の内容をワークシート上に可視化した。また振り返りでは、ワークシートなどから造形的な視点を働かせて活動できたかなど、生徒自身が目標に立ち返って学びを振り返るとともに、自身の変容を自覚できるようにした。

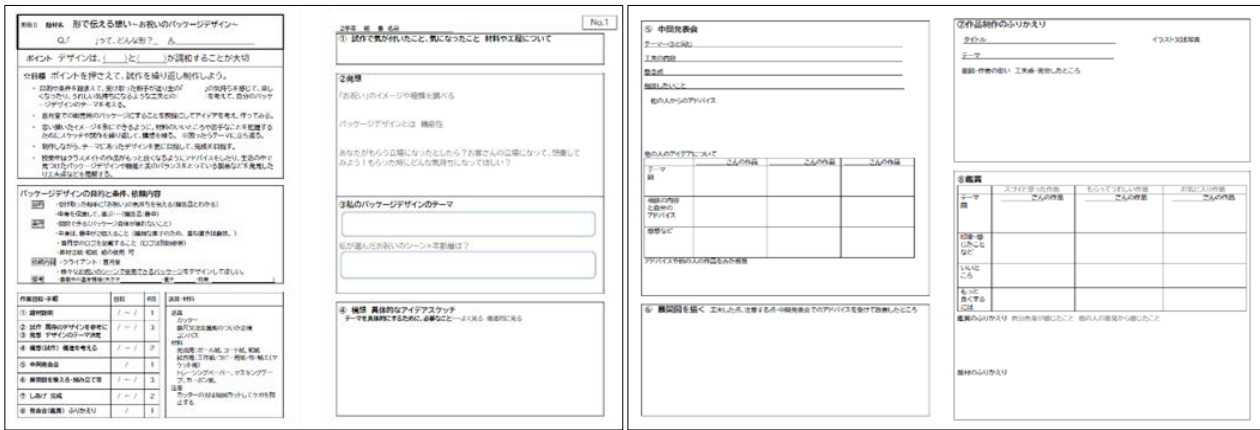


図1 題材の学びを見通せるワークシート (横浜立野高校)

図1 ワークシートは、総合教育センターWebページにてダウンロードできます。

ア 横浜立野高校での活用の検証

生徒の自己調整や粘り強い学習に向かう態度については、ワークシートの両面に題材の活動を示したことで生徒が題材全体を見通し、毎授業で自身の目標を立てることができるようになった。振り返りでは、達成した目標について記載が増え、意欲的に活動に取り組めるようになり、作品を更によくしようと計画的に取り組もうとする生徒が増えた。

表1 生徒の振り返り内容の比較(活動を通じて気付いたこと感じたことという問に対して)

活動を通じて気付いたこと感じたこと(振り返り)の記述内容		
	前題材：『油彩 静物画』	本時
生徒A	背景を黒にすることで作品が際立つようにした。三角錐のグラデーションを頑張った。	自分が一番おめでたいと思う「赤色」を中心に使い、華やかなイメージを伝えたいと思った。
生徒B	花を描くのがすごく難しかったです。ガラスも透明感を出すのが難しかったです。結果的に出せなかったです。でも植物は、葉脈を描いたら上手にできました。	展開図を完成させることができた。試作の反省を受けて、のりしろの幅を広げたことで、安心して組み立てることができた。完成が見えてきたので、嬉しい。

生徒Aは、前題材では活動の内容の記録と感想の記述のみにとどまっていたものが、本題材では、伝えたい気持ちやイメージのために工夫した内容を具体的に記述し、主体的に表現の意図を伝えようとする様子が見取れる。

生徒Bも、自身で設定した目標に対しできたことの記述が増え、試作の制作から学んだことを本時で生かしたという具体的な活動の様子が見受けられる。制作の過程で、本人が工夫した内容も明確に記述されていることから、自己の学びの調整をする側面もみられた。(表1)

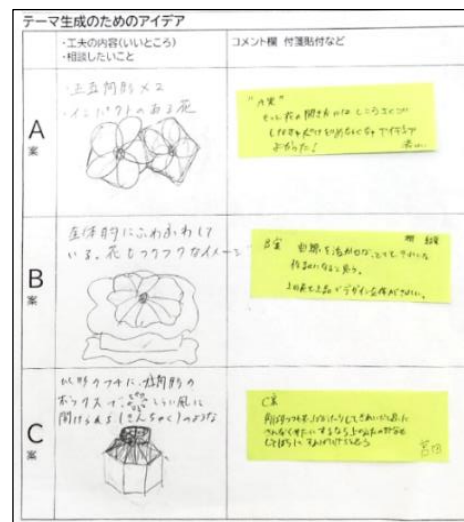


図2 中間発表会①のためのワークシートの一部

図2 ワークシートは、総合教育センターWebページにてダウンロードできます。

イ 評価の検証

○ 発想・構想の活動で、発想を十分に広げずに構想の活動に進んでしまう生徒や、〔共通事項〕のイにあたる全体のイメージで捉えることなどの造形的な視点への理解が不足している生徒、お祝いする時の思いや感情を抽象的な形でイメージできずに具体的な形を発想している生徒などをワークシートの記述から把握することができ、個別に指導し対応することができた。

○ 前述のとおり、造形的な視点への理解が十分ではなく全体として生徒たちの発想の幅が広がらなかった。次の構想を練る段階に意識が向いている生徒も多いため、発想を広げていくことに意義を見出すためにも中間発表会を取り入れ、グループやクラス全体で抽象形体についての理解や発想を広げることの大切さについて共通理解を図った。対応として、中間発表会①(図3)のためのシートNo.2(図2)を作成し、C評価の生徒への指導や全体指導に生かすことができた。



図3 中間発表会①の様子

○ 生徒の発想や構想の流れ、主題生成のタイミングなどがワークシートによって明確になったので、「思考・判断・表現」の評価についてさらに根拠を持って行えるようになった。また、鑑賞の活動では、グループワークを通して生徒がどのような視点でクラスメイトの作品(図4、図5、図6)に注目しているかも明確になり、見方や感じ方を深めていく様子も見取りやすくなった。



図4 完成作品①



図5 完成作品②



図6 完成作品③

ウ 横浜立野高校での検証のまとめ

お祝いとして和菓子を贈られた人の気持ちや感情を想像し、ギフトパッケージのデザインの題材にどのように取り組むべきか、今回研究したワークシートを活用することで題材の見通しを持って主体的に考えることができていた生徒が検証前より増えた印象がある。

グループワークでは、クラスメイトの作品や発表から得た気付きや新しい視点を前向きに制作に生かし、生成した主題を造形的な視点を働かせ試行錯誤して構想を練ろうとしている様子を見取ることができた。一方で、どのような造形的な視点を働かせて学習活動ができているかをワークシートの記述から見取る方法には課題が残った。ワークシートの設問や活用場面の設定の工夫が必要であり、そのことにより効果的な言語活動の展開が期待できると考える。深い学びをめざすために、さらに造形的な視点を働かせる授業ができるように、今後は授業づくりとワークシートの作成を同時に行い、ワークシートの活用場面を精査して年間を通して学びの蓄積を目指していきたい。

3 その他の実践事例

(1) 横浜南陵高等学校(全日制) 実施(11月～1月)

ア 科目名：美術Ⅰ (普通科1年次)

イ 題材名：マチエール(質感)を探る～抽象絵画制作～

「A表現」(1)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、〔共通事項〕

ウ 生徒に身に付けさせたい力

感じたことや発想したことを言語化し、形がないものに対して想像を膨らませ発想を広げる力を身に付けさせる。

エ ウを身に付けるための学習過程の課題とワークシートの工夫(授業改善の手立て)

構成やレイアウトを工夫し、管理しやすいようプリント番号を配置したり追加の配付プリントがある場合は説明を入れたりした。また評価基準となるキーワードを明記し発想を広げるきっかけと言語化への手がかりとし表現と鑑賞の双方の活動が関連するようにした。(図7、図8)

芸術 I <美術> : マチエール (質感) を探る～質感をテーマとした抽象絵画制作～

1年 組 番 氏 名 _____

題材目標：下地作り・絵の具作りの実験を通してマチエール（質感）とは何かを理解し、
絵画の層構造を生かして主題を生成し、抽象絵画として表現してみよう！

1 ◆マチエール（質感）制作の流れ

時間	内容
①時間目	マチエール(質感)制作の流れ確認 教科書に載っている平面絵画作品のマチエール(質感)を観察&想像し、スライドにまとめよう
②～③時間目	マチエール実験！①～下地作りを通じていろんなマチエールを探ってみよう～ ジェッソ・モデリングペーストを使用し、3種類×4枚作成しよう
④～⑥時間目	マチエール実験！②～絵の具作りを通じていろんなマチエールを探ってみよう～ 1 卵テンペラ絵の具編 2 油絵の具編 3 水彩絵の具編 4 アクリル絵の具編 } 下地あり (ジェッソ・モデパ・混合) 下地なし 4種類作成しよう
7時間目	抽象絵画制作～テーマの生成～ テーマを決まったら使用する下地、絵具を決めよう。どの順番で作成していくかの計画を立てよう。今回は純粋抽象画限定で表現していきます。抽象画について少し学んでからアイデアスケッチに挑戦しよう。視覚的情報から形を得るのではなく、感覚やイメージ、感情から画面を構成しよう。
⑧時間目	抽象絵画制作～使用絵の具、制作計画作成～ テーマが決まったら使用する下地、絵具を決めよう。どの順番で作成していくかの計画を立てよう。今回は純粋抽象画限定で表現していきます。抽象画について少し学んでからアイデアスケッチに挑戦しよう。視覚的情報から形を得るのではなく、感覚やイメージ、感情から画面を構成しよう。
⑨～⑩時間目	細部描写と着色 細部を整えつつ、制作を進めよう。⑧時間に2層重ねていくペースだと良いですね。
⑪時間目	中間鑑賞会 テーマの再確認と課題確認の『中間鑑賞会』をします。自身のマチエールが他者にどのような印象を与えるか、確認をしよう。
⑫時間目	最終調整 細部を整えつつ、着色をしよう。
⑬～⑭時間目	作品展示と鑑賞 作品発表用のスライドを作成しよう。 タイトル・制作理由を考えキャプションを作成後、展示をして友達のを鑑賞しよう。

2 ◆マチエール実験！①&② テーマの生成

別紙のワークシート『4種類の絵具の質感を探ろう！』に絵の具制作を通じて感じとったマチエールの印象をまとめよう。実験を通して見つけたマチエールの中から一つを選び、テーマを生成しよう！
以下のキーワードを参考に、テーマを考えてみて下さい。
キーワード：凹凸 結晶 にじみ 薄い 濃い 透明 固い 柔らかい ツルツル さらさら がさがさ 粉っぽい

『 なマチエール 』

該当箇所○をつけよう！

使用する下地は？ ジェッソ ・ モデリングペースト ・ 両方
使用する絵の具は？ 卵テンペラ絵の具 ・ 油絵具 ・ アクリル絵の具 ・ 水彩絵の具

※アクリル絵の具の上から油絵具を塗ることはできますが、逆はできません
※その他の絵の具は基本的に併用不可です

計画を立てよう！※最低4層は重ねよう！

【1層目】	【2層目】	【3層目】	【4層目】
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
①完成予想図	【5層目】	【6層目】	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	【7層目】	【8層目】	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

図7 題材の学びを見通せるワークシート(表面)

3 ◆マチエール中間相談

テーマを再確認しよう！あなたのマチエールはどんなマチエール？ 最初のアディアスケッチに書いた内容をブラッシュアップ(一般とすぐれた内容にすること)しよう！

◆完成までの計画を立てよう！
残り制作時間はスライド制作を含め、⑩時間です。計画的に進めていこう！

残り時間	内容(マチエールに深みを出すために1層青色系を重ねるサラサラ感を出すために粉を混ぜ切らないで乗せてみる…など)
①時間(本時)	
②時間	
③時間	

4 ◆マチエールを探る 鑑賞会

自己評価・単元を通じての振り返りをしよう

該当する項目の口○をつけよう

知識・技能	知識	色や形、材料など性質や働きを理解し、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解していたか。	<input type="checkbox"/> 十分にできた <input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> できなかった
技能	意図に応じて4種類の絵具や下地材、ペインティングナイフなどの道具を生かしていたか。		<input type="checkbox"/> 十分にできた <input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> できなかった
	また、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表現していたか。		<input type="checkbox"/> 十分にできた <input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> できなかった
思考・判断・表現	発想・構想	マチエールを感じ取り、主題を生成し、表現形式の特性を生かし、絵具の色彩や質感などの造形要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練っていたか。	<input type="checkbox"/> 十分にできた <input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> できなかった
	鑑賞	彫塑作品や生徒の作品から造形的なよさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	<input type="checkbox"/> 十分にできた <input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> できなかった
主体的に学習する態度	表現	主体的にマチエールに着目した抽象表現に関心を持ち、4種類の絵具を用いた表現について理解すると共に、それらを生かした表現の創造活動に取り組もうとしていたか。	<input type="checkbox"/> 十分にできた <input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> できなかった
	鑑賞	主体的に彫塑作品や生徒の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と表現の工夫などについて考え、彫塑の見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしていたか。	<input type="checkbox"/> 十分にできた <input type="checkbox"/> できた <input type="checkbox"/> できなかった

他者作品の鑑賞をしよう。班員と全体の中で一番良いと思った作品の鑑賞文を書こう。

作者氏名	テーマ	鑑賞文(キーワード:凹凸 結晶 にじみ 薄い 濃い 透明 固い 柔らかい ツルツル さらさら がさがさ 粉っぽい)
	のマチエール	
	のマチエール	
	のマチエール	
	のマチエール	

図8 題材の学びを見通せるワークシート(裏面)

オ 題材の概要…(鑑賞の場面：表現の工夫について考えるための鑑賞)

下地(ジェッソ・モデリングペースト)や4種類の絵具(アクリル・水彩・油・卵テンペラ)の実験や絵画鑑賞を通じて、絵画におけるマチエールについて考え、「〇〇のマチエール」という主題を生成し、平面の絵画表現を行う。



図9 生徒が作成したスライド



図10 絵の具実験の様子

カ 実践の評価と今後に向けて

- ・ 随時題材の流れを把握できるので、ねらいを常に意識し、活動に見通しを持って取り組む生徒が多く見られた。そのため活動にメリハリができ、授業時間を効果的に活用することができた。
- ・ 「マチエール」という言葉を文字情報と音声情報の両方で示していたことで、マチエールに興味関心を高く持つ生徒が増えた。
- ・ 題材の流れを意識してワークシートを作成するため、評価規準を踏まえた題材構想を練ることができた。また、各活動で生徒の工夫や学びの調整も読み取ることができ、評価がしやすくなった。
- ・ ワークシートをワンペーパーに収めるため、作業時の指示などは載せずにモニターに映していたが、生徒の個別の活動に合わせいつでも指示を確認できるような工夫が必要だと感じた。今後はGoogle Classroomで配信し各自の端末でいつでも見ることができるようにするなど、ワークシートとICT機器の活用をバランスよくできるよう検討していきたい。

(2) 秦野総合高等学校(全日制) 実施(10月～1月)

ア 科目名：美術Ⅱ (総合学科2年次)

イ 題材名：モノに命を吹き込もう ～コマ撮りアニメーションによる映像メディア表現～
「A表現」(3)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、「共通事項」

ウ 生徒に身に付けさせたい力

映像表現の視覚的な要素や効果的な使い方について考え、個性豊かで創造的な表現をするための資質・能力を身に付けさせる。鑑賞を通して造形の要素の働きの理解を深め、造形的な視点から作品を見たり考えたりする力を養う。

エ ウを身に付けるための学習過程の課題とワークシートの工夫(授業改善の手立て)

内容のまとまりや学習過程の前後関係を考えながら、見通しを持って学習活動に取り組める指導の必要性を感じ、ワンペーパーのワークシートで題材全体が見通せるようワークシートを工夫した。(図11)

オ 題材の概要

スマートフォンアプリを使ったコマ撮りアニメーション作品の制作を行う。自然物や人工物の色や形、素材感などから、モノが動き変化する姿や視覚的な要素の働きについて考えながら個性豊かな表現を追求していく。発想構想した内容について中間発表を行い、自らの作品について振り返りなど制作の見通しを持って制作する。最後に完成した作品の相互鑑賞と振り返りを行う(図12、図13、図14)。

カ 実践の評価と今後に向けて

- ・ 学習内容に応じて「KEY WORD」を明記したため、ワークシートの「気付きメモ」に造形的な視点での気付きを言語化して記載することができるようになった。
- ・ 導入からワンペーパーのワークシートを生徒と教師が共有することで、繰り返しの指導や効果的な助言をすることにつながり、生徒が見通しを持って取り組む姿や学習過程での変容など根拠を持って見取ることができた。
- ・ ワンペーパーで実践することで、生徒に見通しを持たせることや、造形的な視点を持たせ表現す

↓ 普段のクラスでの番号

2年 組 番氏名 このクラスでの番号

美術Ⅱ 題材名 『自分の子どもに読ませたい絵本』

① 絵本のタイトル
「
」

② 私の絵本のテーマ

③ 私の絵本の対象年齢は？ そのくらいの子どもの特徴
____ 歳くらい _____

④ 絵本を制作するにあたっての狙い(アピールポイント)

⑤ 絵コンテを描いて気づいたこと、気になったこと、などを記入してください。

⑥ 出版された絵本を読んで、どのような工夫がされていましたか？
絵本のタイトル『 _____ 』 著者 _____

⑦

作業・制作日程	時間	道具・材料
① 導入 課題説明	/	1
② 絵コンテ制作(5h)	/ ~ /	5
③ 制作1	/ ~ /	3
④ 中間発表会	/	1
⑤ 制作2	/ ~ /	7
⑥ 裏付の制作	/	1
⑦ プッカーを貼る	/	1
⑧ (鑑賞) 絵本発表会	/	1

以下の中から使用する
・鉛筆
・色鉛筆
・黒ペン(水性)
・自分で用意した色紙などを貼る
* 水彩絵具は紙がベコベコになります。
上記の画材・材料以外の物を使用する時は相談してください。

⑧ 中間発表会 もらったメッセージカードを貼る

発表して思ったこと、気づいたこと、考えたことを記入してください。

⑨ 完成発表会 もらったメッセージカードを貼る

発表して思ったこと、気づいたこと、考えたことを記入してください。

⑧ この実践課題を制作したことで考えたこと、気づいたこと、を記入してください。

⑨ このワークシートを使ってみた感想を書いてください。

ワークシート 美術Ⅱ 絵本 2023 美術(佐藤(学))

図15 題材の学びを見通せるワークシート

オ 題材の概要

将来、自分に子どもが生まれたときに読ませたい絵本をについて考え制作する。表紙を含め全ページ白紙の製本済の教材を使用し画材は鉛筆、色鉛筆、水性ペンなどから選ぶ。各自で用意した紙や素材(平面的な物に限る)を貼ることも可とする。絵だけの絵本でもよい。完成後は書籍用の透明粘着シートを貼り紙箱で大切に保管するよう促した(図16、図17、図18)。

カ 実践の評価と今後に向けて

- ・長期の題材であったが、ワークシートに制作プロセスを記載するとともに活動のベースとしたため、生徒は様々なプリントを用いながらも多くの情報をワークシートに集約して整理することができ、見通しを持って取り組んでいると感じた。
- ・発想の活動で生成した主題を表現するための工夫点を記入する欄を設けるべきであったと考える。
- ・ワークシートによって生徒の発想のプロセスが明確になり、「思考・判断・表現」の評価を見取りやすくなったので、他の題材でもワークシートを効果的に用いて、指導と評価の一体化を図った授業改善を行いたい。



図16 実際のワークシート



図17 生徒作品



図18 二人一組で作業する様子

(4) 相模原弥栄高等学校(全日制) 実施(11月～1月)

ア 科目名：美術史 (美術科2年次)(専門教科)

イ 題材名：なりきり絵画

ウ 生徒に身に付けさせたい力

イタリア絵画の造形要素を学び、その時代における美術の特質や歴史的背景などによる表現形式の違いなど、構図・色彩・空間や絵画の中のモチーフの意味について理解し、新たな美術文化を創造していく基礎となる思考力、判断力、表現力等を養う。

エ ウを身に付けるための学習過程の課題とワークシートの工夫(授業改善の手立て)

- ・題材の目的をとらえ、生徒が自分たちでより計画的に制作を進めることができるよう、手順がイメージしやすくなるような表裏ワンペーパーのワークシートとなるようにした(図19、図20)。
- ・想像・発想する力が豊かな生徒たちだが、より深く名画の意味や造形要素を分析できるように導くためのワークシートを意識した。
- ・モチーフ室で使えるものを探したり、撮影場所を検討したりしながらメモを取ることができるよう、アイデアを描くエスキーススペースを設けた。
- ・振り返り記入欄では、造形的な見方をもって振り返るために「使ってほしいキーワード」を入れた。
- ・馴染みの薄いイタリア語が、自分たちの実感を伴って学習できるようにした。

美術史 No. なりきり絵画		学年 組 番 氏名
<p>目標 ☆ イタリア絵画の造形要素を学ぶ (構図・色彩・空間) ○グループで協力して絵画の再現を行う</p>		
<p>作業日程・手順</p> <p>①オリエンテーション 「構図について」 「作品制作について」 ふりかえりMEMO</p> <p>②アイデア・作品探し *イタリアの作家の作品から探すこと *作品写真をクラスルームに提出 ふりかえりMEMO</p> <p>③小道具・大道具準備 *学校にあるものや場所を利用する *個人のものを持ち込み可 ふりかえりMEMO</p> <p>④撮影 *撮影希望場所は事前に先生に伝えること *光の方向・背景演出にこだわろう ふりかえりMEMO</p> <p>⑤イタリア語で作品の説明 ふりかえりMEMO</p> <p>⑥美術科展で展示!!</p>	<p>日付 観点</p> <p>/</p> <p>意 能</p> <p>/</p> <p>先 知</p> <p>/</p> <p>発 投</p> <p>/</p> <p>技 知</p> <p>態 表</p> <p>/</p> <p>知 態</p> <p>態 表</p>	<p>メモしましょう</p> <p>作業メンバー</p> <p>構図について(オリエンテーション)</p> <p>なりきり作家・作品の候補は？</p>
<p>アイデアBOX エスキース用のスペース 資料の貼り付け</p>		

図19 題材の学びを見通せるワークシート(表面)

使ってほしいKey Word(構図 色彩 人物 小道具や衣装の意味 背景へのこだわり)

<p>ふりかえりBOX</p> <p>作家名</p> <p>作品名</p> <p>所蔵場所</p> <p>使用材料・制作年・サイズ</p> <p>作品の説明</p> <p>作品解説・意図・作者の思い(日本語)</p> <p>作品解説・意図・作者の思い(イタリア語)</p> <p>作品写真</p>	<p>振り返りBOX</p> <p>* 作品名 作家名はイタリア語&日本語で書きましょう。 * 発表を聞いて学んだこと・感じたこと・気がついたことについてコメントしましょう。</p> <table border="1"> <tr> <td>作品名 作家名 コメント</td> <td>作品名 作家名 コメント</td> </tr> <tr> <td>作品名 作家名 コメント</td> <td>作品名 作家名 コメント</td> </tr> <tr> <td>作品名 作家名 コメント</td> <td>作品名 作家名 コメント</td> </tr> <tr> <td>作品名 作家名 コメント</td> <td>作品名 作家名 コメント</td> </tr> </table>	作品名 作家名 コメント	作品名 作家名 コメント	作品名 作家名 コメント	作品名 作家名 コメント	作品名 作家名 コメント	作品名 作家名 コメント	作品名 作家名 コメント	作品名 作家名 コメント
作品名 作家名 コメント	作品名 作家名 コメント								
作品名 作家名 コメント	作品名 作家名 コメント								
作品名 作家名 コメント	作品名 作家名 コメント								
作品名 作家名 コメント	作品名 作家名 コメント								

図20 題材の学びを見通せるワークシート(裏面)

オ 題材の概要…(鑑賞の場面：表現の工夫について考えるための鑑賞)

有名絵画になりきって、写真表現で絵画を再現する活動を行う。作品の鑑賞、調査をして個人で感じたことや考えたことと、グループ活動を通して他者の意見などから得た新しい視点や気付きを生かして、イタリア美術についての理解を深める。本校は研修旅行でイタリアへ赴くため、本題材で扱う作品はイタリア美術に絞り、イタリア語についても学ぶ(図21、図22)。

カ 実践の評価と今後に向けて

- ・題材の導入から作品発表まで見通しをもって制作を行うので、モチベーションを高めたまま活動することができた。また、生徒がワークシートを活発に活用する姿が見られた。
- ・グループワークでもワークシートから作品の構想や発想についてどのくらい考えたのかが読み取ることができ、「思考・判断・表現」の評価について根拠を持って行えた。
- ・鑑賞発表での生徒たちの発言が充実していたが、それを記録する欄が足りなかったため、他グループの気付きをより記入しやすいワークシートを作成し活用したい。また、造形の要素や描かれているモチーフをより細かく分析し、言語化できるための工夫も行いたい。



図21 ピエロ・デラ・フランチェスカ
〈ウルビーノ公夫妻の肖像〉



図22 なりきり絵画完成作品

美術Ⅱ 題材名 **形で伝える想い～お祝いのパッケージデザイン～**

Q.「お祝いの気持ち」って、どんな形？ A. _____

ポイント デザインは、(機能)と(美しさ)を調和させることが大切

☆活動の目標 ポイントを押さえて、試作を繰り返し、制作しよう。

- ・ 目的や条件を踏まえて、受け取った相手が贈り主の「お祝い」の気持ちを感じて、楽しくなったり、うれしい気持ちになるような工夫と形の美しさとの(調和)を考えて、自分ならではの喜月堂・喜最中のパッケージデザインを考える。
- ・ 喜月堂で販売することを前提にしてパッケージデザインのテーマを考える。
- ・ 思い描いたイメージを立体にできるように、スケッチや試作を繰り返して、材料のいいところや苦手なことを把握して、デザインの構想を練る。 ※困ったらテーマに立ち返る。
- ・ 設定したテーマに沿うよう、デザインの調整や作業工程を工夫しながらパッケージの完成を目指す。
- ・ 授業中はクラスメイトの作品がもっと良くなるようにアドバイスをしたり、生活の中では見つけたパッケージデザインや機能と美のバランスをとっている製品などを発見して工夫点などを理解したりする。

喜月堂・喜最中のパッケージデザインの依頼内容と目的・条件

依頼内容 クライアント:喜月堂

・高校生がお祝いの品として喜最中を贈りたくなるパッケージデザインの提案をしてほしい。

目的 ・贈る相手に「お祝い」の気持ちを伝える(贈答品とわかる)

・中身の喜最中(贈答品)を保護して、運ぶ

条件 ・開閉できる(パッケージ自体が壊れないこと)

・中身は、喜最中が2個入ること(繊細な菓子のため、重ね置きは厳禁。)

・素材は紙、紐の使用も可 ・喜月堂のロゴマークを記載すること(別資料参照)

備考 ・喜最中の基本情報(大きさ _____ ・重さ _____ ・特徴 _____)

作業日程・手順	日程	時間	道具・材料
① 導入 デザインとは	/ ~ /	1	道具 はさみ カッター カッター板 鋼尺又は金属板のついた定規 コンパス 材料 完成用:工作紙 試作用:工作紙・コピー紙・布・粘土他 テープ、接着剤、カーボン紙 作業時の注意 カッターの刃は毎回カットしてケガを防止する
② 鑑賞 既存のデザインを参考に試作	/ ~ /	2	
③ 発想 デザインのテーマ生成	/ ~ /	1	
中間発表会①形から想いが伝わるか確認	/	1	
④ 構想 試作 構造を考える	/ ~ /	2	
中間発表会②目的や機能の確認	/	1	
⑤ 制作 展開図を整える・組み立て等	/ ~ /	3	
中間鑑賞 テーマを追求	/	1	
⑥ 制作・仕上げ/完成	/ ~ /	2	
⑦ 鑑賞 発表会/題材の振り返り	/	1	

- ① 導入** デザインについて考えをまとめよう
 ・「絵画や彫刻」と「デザイン」の2つの表現を比べよう

Q.共通点とは？

Q.異なる点とは？

Q.デザインをするときに気を付けることは？

- ② 鑑賞** 鑑賞や試作で気が付いたこと、気になったことをまとめよう

- ③ 発想** パッケージデザインの目的や使う人や場面をもとにしてテーマを考えよう

- ・「お祝い」のイメージや、クライアントやパッケージするものイメージを挙げてみよう
- ・「お祝い」の種類や、クライアントやパッケージするものの基本情報を調べよう
- ・パッケージデザインの働きとはなにか考えてみよう

Q. あなたがもらう立場になったとしたら？お客さんの立場になって、想像してみよう！
 どのようなパッケージで贈り物をもらうとうれしい？

私が選んだお祝いのシーン×贈る相手の年齢層は？

×

喜最中のパッケージデザインのテーマ

中間発表会① アイデアスケッチやマケットを発表して形で想いが伝わるか確認しよう

- ④ 構想** ③で生成したテーマを具体的にするために、アイデアスケッチやマケット制作をしよう
 ※アイデアスケッチ等は別紙で行い、構想がまとまったらエスキースをしよう

中間発表会② デザインの機能や効果を確認しよう

工夫内容

相談したいこと

他の人からのアドバイス

他の人のアイデアについて

	さんの作品	さんの作品	さんの作品
テーマ 図 工夫内容			
相談したいこと			
・印象 ・感想			
自分がした アドバイス			

他の人の作品を見て感じたことや、工夫等について聞きとったことをメモしよう

⑤ 制作 エスキースや展開図を描こう・中間鑑賞でテーマを確認しよう

- ・工夫した点や注意する点、中間発表会でのアドバイスを受け改善したい点等を意識してエスキースしよう
- ・テーマを意識して、目的などを確認しながら、制作の計画を立て取り組もう

⑥ 制作・しあげ デザインの調整や作業工程を工夫しながら完成を目指そう

タイトル「 _____ 」

イラスト又は写真

テーマ _____

作品制作の振り返り

- ・作品の意図・工夫点・苦労したところ
- ・制作を通して、感じたこと・考えたこと

⑦ 鑑賞 発表会 他の人の作品の良いところを見つけよう

	すぐに採用したい作品	自分には思いつかなかった作品	自分のお気に入りの作品
	さんの作品	さんの作品	さんの作品
テーマ 図 工夫した点			
印象			
感じたこと いいところ等			
自分なら…			

・鑑賞の振り返り 他の人の作品や意見から感じたことや考えたこと

題材の振り返り

美術Ⅱ 題材名 **形で伝える思い～お祝いのパッケージデザイン～中間発表会①**

☆目標 自分のイメージした立体が、「お祝いする」「お祝いされる」シーンでの感情を伝えられるかを確認しよう

テーマ生成のためのアイデア

	アイデア図 又は マケットを置く	コメント付箋貼付欄
A 案		
B 案		
C 案		

自分の「一押し」のアイデアは

案です。

なぜなら、

だからです。

クラスの人たちの「一押し」は

案です。

なぜなら、

だからのようです。

他の人のアイデアについて

	テーマ・図	印象・感想・付箋に書いた内容
自分の班 さんの 案		
自分の班 さんの 案		
自分の班 さんの 案		
さんの 案		
さんの 案		
さんの 案		
さんの 案		

他の人の作品をみた感想 ④構想にいかす内容を書きましょう。